

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------|
| 事業所番号 | 4678300106 |
| 法人名 | 社会福祉法人 愛心会 |
| 事業所名 | グループホーム やくしま |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 8 月 25 日 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 10 月 6 日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 8月31日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 4678300106 |
| 法人名 | 社会福祉法人 愛心会 |
| 事業所名 | グループホーム やくしま |
| 所在地 | 鹿児島県熊毛郡屋久島町原字馬石ノ下914番地23 (電話) 0997-47-2010 |

| | |
|-------|------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号 |
| 訪問調査日 | 平成21年8月25日 |
| 評価確定日 | 平成21年10月6日 |

【情報提供票より】(平成21年7月28日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|--------|------------------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 4 月 27 日 |
| ユニット数 | 2 ユニット |
| 職員数 | 17 人 |
| 利用定員数計 | 18 人 |
| 常勤 | 12 人 |
| 非常勤 | 5 人 |
| 常勤換算 | 15.5 |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------|
| 建物構造 | 木造平屋建て 造り |
| | 1階建ての 階 ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------------|----------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 20,000 円 | その他の経費(月額) | 6,000円 (水道光熱費) | |
| 敷金 | (有) (60,000 円) | | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有() 円 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 180 円 | 昼食 | 250 円 |
| | 夕食 | 290 円 | おやつ | 50 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(7 月 28 日現在)

| | | | | | |
|-------|------------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護1 | 6 名 | 要介護2 | 4 名 | | |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83.38 歳 | 最低 | 72 歳 | 最高 | 99 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------|
| 協力医療機関名 | 屋久島徳州会病院 |
|---------|----------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは屋久島の南方にあり、ホームの庭からは花崗岩でできたモッコム岳の大岩壁を見ることが出来る。ホームは昨年まで1ユニットであったが、21年4月隣に1ユニット増設されている。自然環境に恵まれた地区では300人弱の人が住んでいて、グループホームと関連の通所介護センターが目立つ存在である。管理者・職員は利用者の残された能力を活かし、その人らしく自由に生きて貰うよう家庭的な環境づくりの支援をしている。職員・利用者共に楽しそう、明るい、仲良し、よく動く、生き生きとしているのが印象に残るホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は運営推進会議を活かした取り組みの項目で早期に運営推進会議を開催することが課題であった。管理者は早速準備に取り掛かり20年11月第1回目の開催を行い、その後は2ヶ月に1回定期的に開催している。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は全職員が日頃取り組んでいるサービスについて、振り返り、点検できるように、各ユニットに自己評価表を渡し、管理者が項目のアドバイスをしながら職員に自己評価表の書き込みをさせて、管理者がまとめている。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの課題であった運営推進会議を立ち上げて昨年11月第1回の開催を行い、その後は2ヶ月に1回開催している。区長、民生委員、行政から地域の情報をもらったり、消防訓練のアドバイスや看板の必要性についての助言など、会議での意見をサービスの向上に活かしている。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や運営推進会議、電話での報告時には家族の意見や要望を聞くように努力している、家族の意見や要望に対しては管理者・職員が話し合い運営に反映させている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域は人口も少なく、地域活動は停滞の状況である。そのような島事情の中で、地区の運動会に参加したり、関連の通所介護事業所へ訪問したり、利用者が縫った雑巾を小学校に寄贈したり地域との交流に努めている。</p> |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者の人間としての尊厳を大切にゆったりと自由に安心して暮らせる家庭環境と馴染みの地域での暮らしを大切に支援していく理念をつくっている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は毎朝の申し送り時に、理念の唱和をし、理念の共有を図っている。リビングや事務所に理念を掲示をし、職員は理念を意識しながら、利用者との関わりの中でゆっくりと、自由に、能力に応じた支援に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域は人口も少なく地域活動は停滞の状況である。そのような島事情の中、地区の運動会に参加したり、関連の通所介護事業所へ訪問したり、利用者が縫った雑巾を小学校に寄贈したり地域との交流に努めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前年度外部評価の改善点であった運営推進会議の開催については2ヶ月に1回定期的に開催し改善している。自己評価作成について管理者は各ユニットに自己評価票を渡し、項目のアドバイスをしながら全職員に書き込みをさせて全員が日頃のサービスについて振り返りができるように取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームの課題であった運営推進会議を立ち上げて昨年11月第1回の開催をし、その後は2ヶ月に1回開催している。区長、民生委員、行政等から地域の情報をもったり、消防訓練のアドバイスや看板の必要性についての助言等会議での意見をサービスの向上に活かしている。 | | |

鹿児島県 グループホームやくしま

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 介護相談員の受け入れは不定期ではあるが行っている。包括支援センターや福祉事務所とはホームの入居状況などの情報交換を行っている。町の担当者とは行き来しながら、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 全家族には毎月、介護記録とバイタルチェック表をコピーして送付している。一部の人の金銭預かりについては家族の訪問時に確認してもらいサインをもらっている。遠方の家族には毎週1回電話で様子を知らせ、直接窓口で支払する家族には訪問時に報告するなど個々に合わせた報告をしている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の訪問時や運営推進会議、電話での報告時など家族の意見や要望を聞くように努力している。家族の意見や要望に対しては管理者・職員が話し合い運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 運営者・管理者は事業所間の異動やユニット間の職員異動は基本的に行わない方針である。管理者は職員が相談しやすい環境に配慮し、離職が無いよう努めている。異動があった場合は馴染みの職員が利用者との仲介に努めるようにしてダメージを防いでいる。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 母体の老人福祉施設の研修、保険所主催や町主催の公的な研修、原田学園の介護技術研修など屋久島内外限らず参加している。ホーム内では参加した職員の伝達研修を行い、知識や技術の向上に活かしている。 | ○ | 年間の研修計画を作成し、職員の経験や習熟度に応じた段階的な研修の受講機会を確保して頂きたい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ケアマネ連絡協議会や介護施設、介護事業所等と交流している。島内には2か所しかグループホームが無く相互間の交流訪問はしていない。 | ○ | 島外に関連のグループホームが多数あり、管理者は研修交換を検討中であり、是非実行に移されて同業者との活動を通じたサービスの質の向上に役立てていただきたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者・家族の見学や、利用者の1～2日の体験入所などしてもらい納得した上でサービスの開始を行っている。入居後は意向やペースを把握しながらサービス提供を行い、徐々に馴染めるように支援している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者の得意とする場面を大切にし、つわの皮むきや野菜の下ごしらえ、モップがけ、雑巾縫い、鏡餅の飾り付け、鏡開き、針の収納の仕方など教わりながら、職員と利用者は共に学んだり、感謝したり支えあう関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時にアセスメントし暮らし方の希望や意向を把握している。入居後は職員が利用者とのかかわりの中で言葉や表情、態度から意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居が決まった時点で利用者・家族に心身の状況や今までの暮らしぶり、今後の要望などを聞き、職員と検討しプラン案を作成し、本人・家族を含めた担当者会議を開催している。利用者本位の暮らし方を重点に置きながら話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の見直しは半年に1回診断書や看護サマリーの意見を取り入れながら行っている。3か月毎モニタリング評価をし、状態が変化した場合は随時利用者・家族の要望を取り入れながら状況の変化に応じた介護計画の見直しをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 急な変化にも応じて貰えるように診療所や協力病院と医療連携ができています。家族の事情に応じ通院支援や墓参りの支援も柔軟に対応しています。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の他、かかりつけ医があるが適切な医療が受けられるように家族と協力しながら通院介助や定期健診、往診をしてもらうなど支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用者が重度化した場合や終末期に向けた対応について入居時に口頭で説明をしているが、文書化されていなく方針が分かりにくい。 | ○ | 事業所として重度化した場合や終末期のあり方について対応方針を定め、支援に繋げていく取り組みができるように文書化し、入居時に家族に説明し方針を共有して貰うことを望みます。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 管理者は申し送り時や会議においてプライバシーを損なう言葉や対応(申し送り時に人名を使わないで番号で話す。利用者の前では他の利用者のことは言わない。退職後の守秘義務、書類保管の管理、個人情報の取り扱いなど)について話し、プライバシーの確保を図っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ホームの1日の流れの中でひとり一人のペース(就寝時間、起床時間、入浴時間...)に合わせ、希望の過ごし方(外出時に化粧する人、草取りが好きな人、オセロゲームが好きな人、コーヒーが飲みたい人...)を大切に支援している。 | | |

鹿児島県 グループホームやくしま

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員は利用者の食べたい物を聞きながら献立を作成し、一緒に買い物にでかけ、一緒に作り、一緒に食事することで楽しみなものになっている。誕生日の特別メニューやレストランでの外食も楽しみなものとなっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週3回入浴日を決めているがそれ以外の入浴希望があった場合、柔軟に対応している。午前、午後の希望時間を選んで入浴支援が行われている。入浴できない人には清拭を行い、午前と午後のお湯の入れ替えをし、近くの足湯に行くなど楽しんで貰うように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者のできること、したいことの役割(モップがけ、雑巾縫い、ラッキョウ漬、梅干し、草取、つわむき、蓬摘み、皿洗い、野菜の皮むきなど)をしてもらい張り合いのある生活を送っている。ドライブや買い物、歌や、オセロゲーム、パッチワークなど楽しみや気晴らしの支援もしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気、気候、気温、利用者の体調や要望に応じ地域の散歩や買い物、ドライブに出かけ気分転換を図ったり、季節感を感じたりできるように日常的な外出支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 夜間帯以外は鍵をかけないケアの取り組みをしている。職員は外出傾向の人を把握しており、外出の様子があれば声かけを行い一緒に出かけている。近隣に住宅も少なく、地域は山も近く万一の気づきが出来なかった場合を想定し、センサーを取り付け安全に配慮している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 重要事項に年2回の避難訓練をすることが明示されているが、過去1年間の避難訓練は行っていない。今年の9月に地域消防分遣隊と、地域の住民参加で防災訓練を予定している。 | ○ | 火災については消防署のアドバイスをもらい消火、避難、通報訓練を、職員、利用者、地域の人が参加して年2回以上行っていたきたい。風水害、地震についても十分な対策をされることを期待します。 |

鹿児島県 グループホームやくしま

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|--|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 各ユニットごと職員は過去の経験を踏まえカロリーを考慮しながら献立を作成し、利用者の状態に応じた調理を行っている。献立は母体施設の栄養士に見て貰い指導をもらっている。食事摂取量については記録しているが水分量については記録していない。 | ○ | 管理者は1日の必要水分量について認識し、目安を立てて職員に指導支援しているが、一人ひとりの摂取量の把握ができていないと言いたい。職員に水分摂取の重要性を認識してもらうためにも記録されることを望みます。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 明るいうリビングダイニングキッチンで過ごす時間が多く、ウッドデッキにでたり、畳コーナー、ソファ、テレビの設置など家庭的で落ち着ける雰囲気になっている。壁に折り紙で作った朝顔の作品・地曳網やひまわりの塗り絵を飾り季節感を採り入れている。認識しやすいように部屋の入口にひまわりの造花を付けたり、風呂場に温泉マークをつけたり工夫している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にベットやトイレ、タンスが設置してあり、各家庭から座椅子、ソファ、テーブル、時計、電話、家族の写真、携帯電話、仏壇、家族の写真、裁縫道具など馴染みの物を持ち込み、それぞれが居心地良く過ごせるようにしている。 | | |